

ぶどうの栽培技術向上を目指した指導会等の実施

■背景とねらい

ぶどう「シャインマスカット」の高品質生産のため、栽培経験が少ない「南信州シャインマスカット研究会」を対象に研修会や小集団による課題研究を通して、栽培技術の習得及び技術の向上を図った。

■本年度の取組

1 早期成園化を図るための技術習得

概ね定植後3年目までの幼木を対象に、早期成園化を図るための新梢管理方法や初なり房の果房管理方法についての指導会を5月と11月に飯田市と松川町の2会場で開催した。

2 高品質生産技術の実践

(1) 小集団活動による解決支援

栽培技術の向上と会員同士の情報交換を目的に「シャインマスカット」の栽培上の課題を4つ選定し、1課題につき5名程度での小さい集団で試験を実施した。

(2) 県コンクールへの出品に向けた管理技術の指導と実践

高品質な果房生産を目指すため、果房管理や新梢管理を中心とした講習会を5月と6月に高森町で開催した。また、適期収穫を徹底するため、9月には会員それぞれのほ場から房を持ち込んでもらい、熟度判定を実施し、併せて県のうまいくだものコンクール「シャインマスカットの部」への出品を呼びかけた。

3 軽労化器具及び非破壊糖度計の導入推進

研修会の開催時に非破壊糖度計や腕上げ器具、自動草刈り機などスマート農業関連の機器等を展示した。また、個別巡回で腕上げ器具の試着をしてもらい体験してもらった。

■本年度の成果

1 早期成園化を図るための技術習得

2会場合わせて40名程度の出席があった。研修会では新梢の摘心位置を実演しながら説明をし、

出席者の理解を深めることができた。また、昨年に引き続き11月の研修会時に凍害対策としてワラ巻きの実演を行ったところ、スマートフォン等で撮影している出席者が多く、関心の高さをうかがえた。

2 高品質生産技術の実践

(1) 小集団活動による解決支援

4課題計21名を対象に、課題に対する試験を実施するとともに、栽培技術への理解を深めることができた。また、参加した会員のほ場巡回を実施し、栽培上の悩みや技術について情報交換をすることができたので、参加者自身の技術レベルの向上が図れた。

(2) 県コンクールへの出品に向けた管理技術の指導と実践

研修会では50名近く出席があり、花穂整形や摘粒の実演を行い、出席者の理解を深めることができた。

コンクールへの出品は、研修会や巡回時に呼び掛けたをしたが、8月の天候不順により高品質な房を生産するのが難しく出品を断念する会員が多かった。結果的に1名の会員がコンクールへ出品し、果実品質データについてフィードバックをし、今後の栽培管理に役立てた。

3 軽労化器具及び非破壊糖度計の導入推進

腕上げ器具は、巡回等で実演や試着をして体験してもらったが、軽労化を実感が薄かったため、実際に購入した会員は少なかった。

■今後の課題と対応

管内では、ぶどうの栽培面積が拡大傾向であるため、新規栽培者の技術向上が継続的な課題である。このため、出荷団体と連携しながら、栽培技術及び高品質生産を図るための、技術指導を継続する。

(技術経営係：田邊 友樹)